

## 富士見小P T A活動の見直し(案)詳細版

### 1 見直しについての推移

- ・ P T A活動の目的を踏まえつつ、会員の負担感を軽減し、今後も持続可能なP T A活動の在り方について検討を進めた。
- ・ 令和3年度に実施した2回のアンケート結果を基に、P T A本部役員と各委員会の委員長の話し合いを行った。(合計4回)

#### 磐田市立富士見小学校P T A会則

(目的及び活動)

第3条 本会は父母と教職員が協力して、家庭と社会における児童の健全な成長を図ることを目的とする。

第4条 本会は前条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- 1 学校教育に対する理解を深め協力する。
- 2 家庭と学校との距離を緊密にし、進んで一般社会の協力を求める。
- 3 会員の教養を高め、地域社会の文化の向上に努める。
- 4 教育的環境の整備に協力する。
- 5 その他本会の目的を達成するための必要な事項。

学校・家庭  
との連携  
会員の研修  
教育環境整備

※ 会則から本校P T A活動の目的を、学校家庭との連携・会員の研修・教育環境整備の3つと捉えました。

### 2 話合いの結果

#### (1) シルバー実行委委員会

<今までの活動内容>

- ①プレゼントの内容と運動会のシルバー種目考案
- ②お茶の購入
- ③プレゼントとお茶の袋詰め
- ④1, 2年生のシルバー種目練習に参加(運動会1週間前ごろ)
- ⑤運動会当日の仕事の確認と役割分担をする。
- ⑥お年寄りの接待〔受付、案内、湯茶等〕とシルバー種目の準備、運営(運動会当日)

◎ **令和5年度以降は活動しない。**

- ・ 地域とのつながりを大切にしたいシルバーの活動であったが、参加者を招待する際のプライバシーの問題や、連絡調整、競技実施における安全管理の面などから、今後は実施するのに、多大な配慮や負担が考えられる。
- ・ 地域とのつながりは、運動会の機会だけでなく可能である。(人材活用、あいさつ等)
- ・ 運動会の開催について、地域に発信することはよいことだと思う。(児童によるチラシやポスター等) いつも、子供たちのことを応援し見守ってくださる地域のお年寄りが、運動会を参観できるよう、お年寄り用の観覧席は設けるとよい。

#### (2) 広報委員会

<今までの活動内容>

- ①P T A新聞『わかば』を発行する。(P T A本部との連携しP T A活動のP Rを行う。)
- ②講習会への参加(委員長を含めた委員の中から2名程度)
- ③その他広報に関することを行う。(運動会の写真撮影等)
- ④(委員長は、市P連広報委員を兼任するため、市P連広報委員会へ出席)

◎ **令和4年度以降、第一号のみとし、第2号は発行しない。**

- ・ 例年、第1号は、その年度から新しく富士見小に勤務することとなった先生方を含め、担

任や教科で関わる先生方の紹介がされている。それは、保護者も子供も楽しみにしている家庭が多く、家庭での話題になるため、存続していきたい。

- ・ 第1号は、毎年保管している家庭も多いと聞く。
- ・ 第2号の内容は、主に「運動会」「修学旅行」「観音山」が主である。これらは、該当する学年の保護者は見るが、そうでないと簡単に目を通しただけとなることがほとんどである。
- ・ 第2号の内容を工夫できないものか考えてはみたが、学校の行事や活動は、先生方が日々のホームページでタイムリーに紹介してくださっている。先生方には、御苦勞をおかけするが、それがあれば十分である。
- ・ かつて、新聞社が取材する講習会へ参加していたが、現在は参加していない。
- ・ 現在は、レイアウトの割り付け等、委員長の負担が大きいので、たよりの編集が簡単にできるように、業者も検討し工夫していく。

### (3) バザー実行委員会

<今までの活動内容>

- ① P T Aバザー全体の大筋の計画・準備・運営の段取り、学級や学年との連携
- ② P T Aバザー学年ごとの担当コーナーの準備と当日の販売の際  
(コーナー責任者として)

#### ◎ P T Aバザーは、今後実施しない。

- ・ バザーに限らず、イベントを実施することで、学校と保護者の連携・保護者同士の連携等推進することもできるし、子供たちも楽しみにしている。
- ・ 子供たちが楽しみにする行事と言った観点では、別の企画をすることも考えられるのではないかと。
- ・ 主催する側の準備や運営には、大きな負担がある。
- ・ コロナ禍の中で、数年実施しなかったことで、既にわからなくなっている準備や段取りが多い。
- ・ 改善して実施するという案もあるが、今までにない形で実施するための労力も大きい。
- ・ バザーの収益金による教育環境整備も大きかったが、学校の教育環境の+αという意味合いである。「無ければ無いように整備していく。」「バザーの収益だけが一番の目的とは考えない。」という学校側の話も聞いた。

### (4) 保健体育委員会

<今までの活動内容>

- ① 学校保健委員会（年2回）への出席→学年P T A会員への報告
- ② 学校保健委員会参加者へ向けての便り作成
- ③ 運動会でのP T A種目の計画と進行
- ④ (かつては、持久走大会等への対応があったかもしれない。)

#### ◎ 令和5年度以降は活動しない。ただし、学年委員は、学府学校保健委員会に参加する。(オンデマンドを想定)

- ・ 現在、学校保健委員会は、学府学校保健委員会も実施しており、学府に共通する課題をテーマに実施しており、学府学校保健委員会を学校保健委員会に兼ねることも可能である。
- ・ 学校保健委員会への代表の参加者としての意味もあったが、学府学校保健委員会をオン

デマンド式にすれば、全保護者対象にすることもできる。

- ・ コロナ禍に入るまでの数年は、運動会でのPTA種目は、全校児童＋保護者でダンスを実施していた。急に保護者がダンスを踊ること自体無理があった。運動会自体がシンプルになっている状況の中、あえてPTA種目を取り入れることの必要性も低くなってきた。
- ・ 今後、感染症の予防のための対応の必要性は不明だが、不確定な要素なので、必要な場合はボランティアを募る形でも可能だと思われる。

#### 〔5〕 講演会実行委員会

〔 <今までの活動内容> 〕

① P T A 教育講演会の計画等運営を行う。(案内の便り作成と配布、とりまとめを含む。)

◎ **今後、オンデマンド方式の教育講演会を実施する。**

- ・ 特に低学年の児童をもつ保護者については、日中に教育講演会を実施するのは、難しい。
- ・ P T A の目的の一つである研修機能として、必要な機能だと思う。
- ・ オンデマンドの講演ならば、聞きにくいということもなくいつでもだれでも何度でも研修ができるので、コロナ禍でなくても有効だと思う。
- ・ 講演者の人選が最も難しいが、磐田市 P T A 連絡協議会から講演者のリストも紹介していただけるし、補助も受けられるので、それを利用したらどうか。
- ・ 委員長や副委員長のみに負担がかかるという声もあったが、講演会実行委員会が話し合い講師を選定し、委員長や副委員長が開催までの設定を進め、他の委員が、開催後のアンケート集計や次年度の要望等を行うようにする等の分担も考えられる。(ただし、6人程度の少人数で)

#### 〔6〕 学年部

〔 <今までの活動内容> 〕

① 役員選考委員として役員選考委員会や選考会への出席

② 各学年や学級での行事(親子の集い、発表会、大会等)の計画や運営、補助

③ 懇談会の計画や司会、記録

④ 学校保健委員会(年2回開催)への出席(各学級から1人以上)

⑤ 3年部は、茶の間委員2名の選出

⑥ 学年会計監査

◎ **各委員会の構成のベースとして今後も継続していく。**

- ・ 「懇談会は、教師が進めればよい。という考え方もあるが、参観会や懇談会自体、学校と保護者の連携をねらい行っているので、共に進めてほしい。」と学校は考えている。
- ・ 懇談会前には、担任から学年部の役員に必ず相談をする。(今後、参観会は一度に実施する。)
- ・ 学年会計の監査という目も必要。
- ・ (学年が3学級の場合)各学年3名×3学級=9名を選出し、3名が学級P委員長、他の2名が副委員長、学級P委員長は学級のことのみ対応。副委員長は、学級P委員長の補佐をしながら、広報部か教育講演会実行委員会か環境部美化委員会に所属し、それぞれの活動を行う。

## (7) 環境美化委員会

<今までの活動内容>

- ①資源回収にかかわる仕事 ※当日は、積み込みや誘導等（令和3年度は年4回）
- ②奉仕作業にかかわる仕事（令和3年度は2回）

委員長は、奉仕作業日の数日前に担当教諭から作業の要望を聞き、作業内容の確認準備を行う。準備が必要な場合は、該当学年代表へ報告、作業へ。

当日の受付、運営（作業説明を含む）片付けを行う。

### ◎ 資源回収・奉仕作業は継続実施していく。

- ・ 実質的には、学校の担当者が準備等を進めているため、委員の負担は大きくない。
- ・ 12名の委員を資源回収3-4回の当日の積み込みや準備・片付け等に関わる。
- ・ 教育環境整備という点から奉仕作業は必要。資源回収も収益の状況はよくないが、少しずつでも収益を蓄積していくことで教育環境をよくできるのではないかと考える。
- ・ 奉仕作業への参加はボランティアを募る形で実施。ただし環境美化委員は、自分の該当学年の回には参加する。
- ・ 地域への貢献という意味もある。回収方法等も確認し、改善する必要がある部分は改善していく。

## (8) 児童安全委員会

<今までの活動内容>

- ①こども110番旗の確認と更新

### ◎ 継続していく。

- ・ 地区の子供会の役員が児童安全委員となっている。
- ・ 子供会との関係については、確認していく必要がある。

## (9) 父親委員会

<今までの活動内容>

- ①親子ふれあい活動の計画と実施
- ②バザーの際のゲームコーナー、フランクフルト、綿菓子、ポップコーン等の出店

### ◎ 必須の活動とするのではなく、実施するか否かから検討する部とする。

- ・ バザーを実施しないため、バザー出店の必要はない。
- ・ 芝生の水やりのお手伝いも仕事を休んで出るまでの活動ではない。
- ・ 親子ヨット体験、アルティメット体験、昆虫くんガイドツアー…、オッケーくんガイドツアー、飯盒炊さん体験等の例を示し、募集を募る等の工夫をする。
- ・ “PTA活動に父親も参加を”という趣旨から起こった委員会でもあるのではないかと  
思う。委員会自体が活動内容の実施からを考え進めていくのが良いのではないかと  
思う。
- ・ 任意の“子供の体験活動プロジェクト委員会”的な捉えでどうかと思う。

### 3 具体案

#### (1) 委員会の構成

令和3年度まで			見直し案	
① 学年部委員会	38名	連携	① 学年部	18名(各学年3名)
② 広報部委員会	9名		② 広報部委員会	6名(各学年1名)
③ 環境美化委員会	18名	教育	③ 環境美化委員会	24名(各学年4名)
④ 保健体育委員会	9名	環境	<del>④ 保健体育委員会</del>	<del>9名</del>
⑤ 講演会実行委委員会	6名	研修	⑤ 講演会実行委委員会	6名(各学年1名)
⑥ シルバー実行委員会	12名		<del>⑥ シルバー実行委員会</del>	<del>12名</del>
⑦ バザー実行委員会	18名	⇒	<del>⑦ バザー実行委員会</del>	<del>18名</del>
⑧ (児童安全委員会	名)		⑧ (児童安全委員会	名)

#### (2) 役員選考方法

##### 【本部役員】 + 【父親委員】

##### ① 活動内容を明確にする。

< P T A 会長 1名 >

- ・ P T A 活動全般の推進

※ 入学式挨拶と卒業式挨拶と運動会挨拶は、会長が希望しない場合は無し。

※ P T A 総会は、紙上開催を基本とする。

※ 市P連の会長会は年3回。副会長の代理も可能。(できれば交代で)

< P T A 副会長 2名 >

- ・ P T A 会長の補佐

- ・ 会長へつながる副会長は、「よつば学府協議会」への出席(2回)

< 会計 >

- ・ 本部活動の推進
- ・ 学生協加入の説明、算数ボックス等の引き渡し
- ・ P T A 会計(父親委員会等の企画があった場合)

< 書記 >










- ・ 本部活動の推進
- ・ 本部の活動の記録
- ・ → ( P T A 活動別表 )

##### ② 5地区からローテーションで(3名)の役員を選出する。残り2地区からは2名の父親委員を選出する。

※ 父親委員会は、活動を実施するか否かから検討することとしている。「活動するかしないか分からないような委員会の委員を選出するのはいかなものか。」という考えも出ることが考えられるが、今まで継続してきた5地区のローテーションの見直しまでは難しいと考えた。今後、数年間の父親委員会の活動を踏まえながら、父親委員会の存続についても検討していく。

【専門部役員】

① 例) 3 学級の場合 各学級× 3 名を選出する。

-  学級 P 長 学級 P
-  **学級 P 副 広報委員**
-  学級 P 副 環境美化委員
-  学級 P 長 学級 P
-  **学級 P 副 教育講演会実行委員会** × 6 学年分
-  学級 P 副 環境美化委員
-  学級 P 長 学級 P
-  学級 P 副 環境美化委員
-  学級 P 副 環境美化委員

○学級 P	: 懇談会の進行、担任との連携。(年 3 回) 次年度の学年委員の選出	18 名
○広報委員	: わかば発行 1 回発行。学級 P の補佐	6 名
○環境美化委員	: 資源回収 3 回のうち 1 回に参加。学級 P の補佐	24 名
○教育講演会実行委員会:	教育講演会の企画。アンケート集計(次年度の希望含む)	6 名
※ 9 名の学年委員は、学府保健委員会に参加する。(オンデマンド想定)		

各学年 3 名 合計 54 名

旧) 12 名 × 6 学年 = 72 名の選出

新) 9 名 × 6 学年 = 54 名の選出